

JICA 教師研修 学習指導案・授業実践報告書

【実践者】

氏名	中村 香	学校名	東京都 国立東京学芸大学 附属小金井学校
担当教科等	外国語	対象学年（人数）	6年（3学級：34名，34名，33名）
実践年月日もしくは期間（時数）	令和3年10月 ～令和4年11月（10時間）+ α		

【実践概要】

1. 実践する教科・領域：外国語×総合	
2. 単元(活動)名：We all live on the Earth!!	
3. 授業テーマ（タイトル）と単元目標 授業テーマ：「地球に住む生き物について知り、自分のできることを考えよう」 単元目標：生物、環境、自分たちの生活が関わっていることを知り、できることを考えよう。 関連する学習指導要領上の目標：	
4. 単元の評価 規準	①知識及び技能 住んでいる所（Lions <u>live in</u> savanna.）や食べるもの（Lions <u>eat</u> zebras.）を英語で聞いたり、伝えたりすることができる。
	②思考力、判断力、表現力等 絶滅危惧種になっている生き物について調べ、住んでいる所と食べるもの、絶滅危惧種になってしまった要因と、その生き物を守るための具体的な行動について伝えるポスターを工夫して作ることができる。
	③学びに向かう力、人間性等 生き物の住んでいる所や食べているものについて英語で理解したり英語で伝えたりする学習を通して、地球的課題である生物の多様性や環境と自分たちの生活が関わっていることを知り、自分事として考えて行動しようとしている。
5. 単元設定の理由・単元の意義 (児童/生徒観、教材観、指導観)	<p>【単元設定の理由】 新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、児童の学校生活や日常も制限や規制が多い状況が続いている中、新型コロナウイルスを理由にできないことを当たり前として諦めてしまう姿も見られる。そこで、新型コロナウイルスや異常気象、自然災害の増加などは、地球温暖化が一因となっていること、それを引き起こしているのは生物の乱獲、森林伐採、近代化に伴ったCO₂排出量の増加など私たち人間の生活が大きく関与していることを、自分事として考えさせたい。特に、自分たちはこのウィルス感染で当たり前の日常生活を奪われた被害者と言うだけでなく、このウィルスを引き起こしてしまった原因に大きく関与している加害者でもあることを知り、自分たちの生活を考える機会としてこの単元を設定した。</p> <p>【単元の意義】 単元を通して、ターゲットとなる英語表現を知識として学ぶだけでなく、現代の地球的課題である生物の多様性についての理解を深め、自分たちの生活を見つめ直す機会となることを期待している。</p> <p>【児童観】 地球環境やSDGsがテレビや新聞などのメディアでも話題となる中、知識として知っている児童は多くいる。しかし、地球温暖化や地球環境の問題や課題を自分の生活と</p>

結びつけて考えられたり、行動したりしている児童は少ない。英語の学習に関しては、6年生のほとんどの児童が英語を話せるようになりたいと思っており、多くの児童が、熱心に学習に取り組んでいる。その一方で、日本語のように英語ができないことに歯がゆさやいらだちを感じ、英語への苦手意識を理由に、学習に対して消極的な児童もいる。

【指導観】

単元を通して、ターゲットとなる英語表現を知識として学ぶだけでなく、現代の地球的課題である生物の多様性についての理解を深め、自分たちの生活を見つめ直す機会とする。そのために、導入として「もしも世界が100人の村だったら」をもとにしたクイズをし、自分たちの生活が地球環境に影響を与え、遠く離れた異国の人々の生活にも大きく影響していることで、生物の多様性についての課題意識をもたせる。単元の最後には、生物多様性のポスターを作成することを伝え、授業と平行してポスターにする生物を決め、その生物について調べさせ、興味関心を高め自分事として課題に取り組ませる。また、JICA職員でアフリカのガーナで隊員として活動した宮田さんやガーナからの留学生のフリーダさんから、ガーナの環境、人々の生活、児童労働などについて話してもらうことで、理解を深めるとともに、より身近な課題として捉えさせたい。さらに、英語の言語能力では難しい、より詳しい地球温暖化の原因やそれに伴う課題や問題については、日本語の資料を使って、理解を深めさせる。

6. 単元計画（全10時間）+α

	小単元名	学習のねらい	学習活動	資料など
1 本時	地球環境について、問題意識をもとう。	・地球環境に日々の自分の生活が関与していることを知る。 (英語)	<ul style="list-style-type: none"> ・「もしも世界が100人の村だったら」をもとにしたクイズの答えを予想し、世界の現状について具体的なイメージをもって理解する。 ・自分の生活（便利な暮らし）と地球温暖化、地球環境問題、自然災害、森林伐採などがどのように関連しているのか図などに表す。 ・自分の書いた物を友達と共有し、理解を深める。 	・「もしも世界が100人の村だったら—完結編—」 (マガジンハウス)
2	学習の見通しをもとう。	・ターゲット表現（I live in savanna. I eat lot of meat, ）を知り、本単元の学習に見通しをもつ。 (英語)	<ul style="list-style-type: none"> ・絶滅危惧種が13万種以上であることを知るとともに、その原因についてもSDGsの視点から考える。 ・生物の多様性が失われ、食物連鎖のバランスが崩れてきていること、自分たちの生活が関係していることを認識させる。 ・絶滅危惧種の中から選んだ生物のポスターを作成することを伝え、見通しを持たせる。 ・歌 We all live on the Earth. を歌い、ポスターに使うターゲット表現を知る。 	・WWFのHP https://www.wwf.or.jp/

3, 4	ポスターに用いる英語表現を学ぼう。	・ポスターで用いる、ターゲット表現に慣れ親しむ。(英語)	・毎時間 We all live on the Earth.の歌を歌う中で、ターゲット表現である住んでいる所と食べるものを聞いたり、言ったりする。 ・教科書のリスニングを聞いて、英語を理解する。 ・ポスターにする絶滅危惧種を決め、現状や絶滅危機の原因を調べを進める。	・教科書「New Horizon Elementary 6」
5	自然環境について、問題意識を高めよう	・ガーナの環境について、ガーナの留学生から、話を聞いて理解を深め、問題意識を高める。(英語&総合的な学び)	・ガーナからの留学生フリーダさんに、ガーナの環境について話してもらう。 —豊かな自然と野生動物の存在 —自然環境を脅かしている原因(プラスチックゴミ、森林伐採、外国人の金の発掘、工場の大気汚染、化学薬品による水質汚染、密漁) —野生動物への被害の現状 ・話を聞いた後、地球温暖化についてジグソーリーディングで理解を深め、地球環境への問題意識を高める。	・ Song: Earth Michel Jackson https://www.youtube.com/watch?v=XAi3VTSdTxU ・『月刊 News がわかる』 2020年4月号 「温暖化で地球が危ない」 (毎日新聞出版)
6	問題意識の視野を広げよう	・ガーナの人々の生活について知ろう。(総合的な学び)	・JICA 宮田さんの話を聞き、ガーナの人々の生活や児童労働について知る。 —宮田さんのガーナでの生活 —ガーナの学校(学びの環境、給食) —ガーナの児童労働の問題 —何ができるのか —バナナペーパーが解決のカギ	・JICA 群馬宮田峻弥さん
7~9	ポスターを作成しよう	・既習の英語表現を使って、自分の決めた絶滅危惧種のポスターを作成しよう。(英語)	・We all live on the Earth.のポスターを作成する。 —ポスターを作成する前に、自分のポスターに必要な情報を調べて置く。 —ポスターの型に、自分の選んだ絶滅危惧種の写真を貼り、定型文に合わせて文を作成する。 —必ず、教員のチェックを受け、スペルミスや語順間違い、スペースミスなど直したものを提出する。	・WWFのHP https://www.wwf.or.jp/ ・環境省自然環境局「環境省レッドリスト」 https://www.env.go.jp/ko/bunsho/organization/department/nature.html ・国連自然保護連合(IUCN) http://www.iucn.jp/
10	作成したポスターを紹介し合おう	・友達とポスターを紹介し合おう、そして単元を振り返ろう(英語)	・お互いのポスターを紹介し合う。 ・単元を振り返って自分の学びを自己評価する。	
α	バナナペーパーについて、知ろう	・地球的課題への実践例の一つをしり、自分たちの描く未来のために何をすべきかを考えよう。	・JICAの宮田さんが、バナナペーパーというワードを出し、子どもたちが興味をもったため、急遽、バナナペーパーについての授業をした。 ・バナナペーパーの話から、自分たちのできることを考える機会を作る。	・One Planet CaféのHP https://oneplanetcafe.com/ ・バナナペーパーシール JICA 東京
7. 本時の展開(1時間目)				
本時のねらい:				
・「もしも世界が100人の村だったら」をもとにしたクイズの答えを予想し、世界の現状について具				

<p>体的なイメージをもって理解する。</p> <p>・自分の生活（食生活、便利な暮らし）と地球温暖化、地球環境問題、自然災害、森林伐採などがどのように関連しているのか図などに表し、自分なりに理解を深める。</p>			
過程・時間	教員の働きかけ・発問および学習活動 ・指導形態	指導上の留意点 (支援)	資料(教材)
導入 (10分)	1. 挨拶 & Who am I quiz T: Good morning, class. How are you? S: I'm so-so. S: I'm fine thank you. S: I'm sleepy. T: Let's do "who am I quiz".	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶やクイズをしながら、英語の授業へと気持ちを切り替えさせていく ・児童が作った Olympian の 3 hint quiz を毎時 5 問ずつ 	※ワークシート 1
展開 (30分)	2. 「もしも世界が 100 人の村だったら」を基にしたクイズをし、答えを予想する。 T: Today, we are going to start new topic. So, let's think about our world. Can you imagine if the world were a village of 100 people? Let's do the quiz. Q1: How many people live in the city? Q2: ___ people live in city, ___ people live in village, desert, or plain. Q3 Among 51 people live in city, ___ people live in poverty countries ___ people live in rich countries. 3. T: クイズの自分の予想と実際の答えとを比べて、感想や気づいたことはありますか。 S: 思っていたよりも、世界には貧しい人が多いことに驚いた S: 地球温暖化の原因となる CO ₂ を私たちがすごくたくさん排出しているのに、その影響を強く受けてしまうのは貧しい人たちということが、ショックだったし、何とかしないといけないと思った。	<ul style="list-style-type: none"> ・答えを記入できるワークシートを配布 ・問題を PPT で示す ・児童の英語力では、英語でのクイズが難しかったので、問題は日本語でも伝え、答えの数字は英語で扱う ・必要に応じて補足説明をする ・書き終わったら、近くの友達とお互いの情報を交流させる 	「もしも世界が 100 人の村だったら—完結編—」
まとめ (5分)	4. 自分の日々の生活と地球温暖化や他の貧しい国や地域の人々の生活などの関係を、自分なりに図やマップで表してみよう。	<ul style="list-style-type: none"> ・単元の最後に、絶滅危惧種のポスターを書くことを伝える 	※学びの軌跡

	<p>S:環境問題も、自分たちの生活も、貧しい国の人たちの生活も全部つながっている。</p> <p>S:図にすると、自分たちの生活が地球環境に影響を与えていることがすごくよく分かる。</p>	<p>(評価) 本単元の学習に対しての、興味・関心・意欲を高めることができた。</p>	
<p>8. 評価規準に基づく本時の評価方法</p> <p>1) 授業中の態度や発言から、気になる児童や目立つ児童の積極的な学びへの姿勢をみとる。</p> <p>2) ワークシートの図やコメントから、児童の理解度や関心についてみとる。</p> <p>⇒しかし、単元の導入なので、できる・できないではなく、今後の単元の学習への意欲や動機づけができたかどうかを評価する。もしも、興味関心が低い児童がいれば、その児童を注意深く観察し、支援していく方法を考えていく</p>			
<p>9. 学習方法及び外部との連携</p> <p>日本語と比べると扱う英語は単文で内容的に易しく、教科書の内容だけを扱った学習では、知識に偏った形式的な授業になりかねない。児童に意味のある言語活動をさせるかが大事だと考え、導入をクイズなどで興味関心を高め、問題意識をもたせた。また、単元の最後にポスターづくりをすることを伝え、学習の見通しをもたせた。そうすることで、ターゲットとなる英語表現に対しての学習への意欲や意識が変悪と考えた。さらに、JICA 群馬の宮田さんとガーナからの留学生のフリーダさんの話を聞くことで、アフリカのガーナと自分たちの生活が関わっていることを実感し、教室を超えた学びになった。ポスターにする絶滅危惧種については、単元の学習と並行して各自で調べさせておいた。タブレットを一人1台もっていることから、ポスターは、ワードまたはパワーポイントで作らせた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ JICA 東京：バナナペーパーSDGs シールの提供 ・ JICA 横浜ライブラリー：本「14歳からのプラスチックと環境問題」「データでわかる2030年の地球のすがた」 ・ JICA 群馬デスク：宮田峻弥さんによる「ガーナのこどもたち」をテーマにZoomにて6年生に講演 ・ WWF のホームページ、環境省のホームページなどから情報を収集 ・ 東京学芸大学に留学しているガーナ人のフリーダさんにゲストスピーカーとして「ガーナの環境について」の講話 			
<p>10. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2021年12月 第6学年児童 留学生との交流会の実践 ・ 2021年度 小学校英語学会研究紀要に掲載「小学生は異文化体験を通して何を学んだか—CEFR と ICC の分析から考える新しい学びのカタチ—」阿部始子・中村香共著 ・ 2022年1月:朝日新聞主催「かんきょう新聞」に5年生が応募 ・ 2022年2月6日 本校主催 KOGANEI 授業セミナーにて「英語×SDGsの授業実践」を紹介 ・ 2022年6月19日 児童英語教育学会(JASTEC)にて実践報告の予定 「英語×SDGsの授業実践」 			
<p>【自己評価】</p>			
<p>11. 苦勞した点</p>	<p>専科教員として外国語の授業で、SDGsや環境について、児童に深く考えさせたり探究したりよう学習活動を行うこと。教科書の内容とJICAの研修で得た知見とを関連づけた授業にすること。</p>		
<p>12. 改善点</p>	<p>・ 導入のクイズデータが、本の出版された2008年のもので古かった。より新しいデータのものの方が、児童は現状をより正確に把握することができた。</p>		

	<ul style="list-style-type: none"> ・英語だけでなく SDGs の学びとして、担任の先生方にも協力してもらい、総合的な学びの時間などでさらに理解を深めたり探究したりする時間を取れたら良かった。
<p>13. 成果が出た</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業者として、JICA の研究に参加したことで、授業に奥行きや広がりを見込める視野に入れて考えることができるようになった。JICA の研修で得たものは、今年度だけでなく、今後の実践においても活用していくことができる。 ・教科書の内容だけでなく、実世界のデータや情報を扱い、アフリカのガーナのことをよく知っている JICA の宮田さんや留学生のフリーダさんから、話してもらったことで、児童にとって環境問題やアフリカの人々の生活が自分たちの生活と繋がっているという実感をもって学習活動に取り組めたこと。 ・JICA の宮田さんの話の中で「バナナペーパー」が出たことで、児童が「バナナペーパー」に興味をもつ姿は、本授業の成果の一つだと思う。
<p>14. 学びの軌跡 (児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)</p>	<p>(第1時) 児童が、クイズ後に、地球環境や自分との生活を図で表したもの。</p> <div data-bbox="454 734 1369 1368"> <p>◎ 質問、感想</p> <p>都市の人ばかりいたくばかりだと思っていました。でも中には豊しい人もいることが分かりました。だから豊しい人をできる限り少なくしていなかなど自然に近いところでくらすべきだと思いました。</p> </div> <div data-bbox="454 1384 1369 2024"> <p>◎ 質問、感想</p> <p>今日は、「If the world were a village of 100 people」についてやりました。この図は、100人の人から、かんけいのない人の生活にもおこいきょうをもたらしてしまうというのをあらわしました。</p> </div>

(第2時～)

ターゲットの歌を毎時の始めに、繰り返し歌う中で、発音や内容について確認することで、徐々に児童がターゲット表現の意味や扱い方を習得して言っていた。ポスターを書く際に、このターゲット表現をスムーズに扱っている児童が観られた。

(第5時、第6時)

フリーダさんや宮田さんの話を、食い入るように聞いている姿が印象的でした。

(第7時～第9時)

英語の文を書くことに、不慣れな児童が多いので、丁寧に指導していかなければならなかった。(大文字と小文字、ピリオド、スペルミス、不自然な英語表現など)

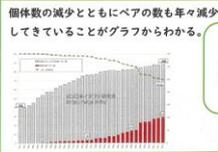
【児童のポスター作品】

EN Golden eagle(Aquila chrysaetos japonica ニホンイヌワシ)



They live in the mountainous in Japan and Korea.
They eat living animals and animal carcass.
But the number is decreasing due to environmental destruction by humans.
We must clean the earth.
I separate garbage every day.

個体数の減少とともにペアの数も年々減少してきていることがグラフからわかる。



参考

イヌワシは主に山間部の大規模な環境開発によって、個体数が減少している。イヌワシは国の天然記念物にも指定されている。今後も継続して保護を行うべきだ。ちなみに、ある動物園では繁殖にも成功している。

Sumatran tiger



They live in Sumatra island in Indonesia.
They eat lots of meat.
But they died of poaching and illegal transactions.
Let's not buy their fur.



僕は虎が好きでなぜ、減少しているのか気になってこのテーマにしました。密猟や違法取引の影響なのであまり買わないようにする

Name _____

15. 授業者による自由記述

JICA の研修で得た知見は、児童の机上の学びを現実世界へと結びつけ、児童に未来を担う一員となるための資質・能力を広く深く学習させることができます。児童・生徒の発達段階や教科カリキュラム等に適応させていくための工夫が必要ですが、今後の自分の授業づくりへの視点や資源として大きな財産を頂いたと思っています。今後も、自分の得た学びを子どもたちに還元していきたいです。

参考資料：・「Earth」 Michel Jackson <https://www.youtube.com/watch?v=XAi3VTSdTxU>

- ・環境省自然環境局の HP 「環境省レッドリスト」
<https://www.env.go.jp/kobunsho/organization/department/nature.html>
- ・国連自然保護連合 (IUCN) の HP <http://www.iucn.jp/>
- ・『月刊 New がわかる』2020年4月号：「温暖化で地球が危ない」
- ・「もしも世界が100人の村だったら—完結編—」(2008年)(池田香代子+マガジンハウス著)
- ・One Planet Café の HP <https://oneplanetcafe.com/>
- ・WWF の HP <https://www.wwf.or.jp/>